公立大学法人福島県立医科大学附属病院

第28号
発行日 平成26年12月26日

福島医大病院ニュースレター

編集・発行/附属病院患者サービス向上委員会

〒960-1295 福島市光が丘1番地／TEL（024）547-1111　ホームページ　http://www.fmu.ac.jp/byoin/index.php

新任挨拶

腫瘍内科部長

佐治　重衡

本年９月１日、当院に新しく腫瘍内科学講座が新設され、その初代部長を務めさせていただくことになりました。これまで東京、岐阜、埼玉、京都などでがん診療に携わってまいりましたが、この度ご縁をいただき、この福島の地に参りました。どうぞよろしく御願い申し上げます。

がんの治療は、手術や内視鏡、放射線照射によってある部分（局所）にあるがんを減らしたりゼロにすることを目的とした局所療法と、局所や全身に広がっているがん細胞を様々な抗がん薬を使って減らしたりゼロにすることを目的とした薬物療法から成り立っています。腫瘍内科は、この薬物療法を専門とする科です。欧州や米国では一般的な診療科の１つであり、たとえば米国には１万４千人を超える腫瘍内科医がいますが、日本ではやっと千人になったところです。福島県全体でも５名の専門医がいるのみです。まだ馴染みのない診療科ですので、これから徐々にその役割が知られていくのではと思います。本来であれば様々な種類のがん患者さんの薬物療法に関わりたいところですが、まだ診療科が始まったばかりであり、担当医も私と非常勤医師である木村礼子先生の２人のみで開始しております。現在おかかりの外科・内科・泌尿器科・婦人科・耳鼻咽喉科・甲状腺などの各診療科で抗がん薬治療を受けている患者さんの薬物療法診療のお手伝いをしたり、治療方針を決める場面で一緒に御相談したりといったコンサルテーション業務から開始いたします。今後徐々に整備して、皆様のお役に立てる診療科になっていきたいと思います。どうぞよろしく御願いいたします。

腫瘍内科外来診療開始のお知らせ

診療開始日	平成26年12月２日㈫
診　療　日	毎週火・木曜日　13：00～15：00（１日４名） 当面は院内他科紹介によるコンサルテーション外来となります。
担　当　医	火曜日：木村　礼子 木曜日：佐治　重衡

小児外科部長

伊勢　一哉

平成26年11月１日より、福島県立医科大学附属病院小児外科部長を務めさせていただくことになりました。福島県の現在を支え未来を拓く子供たちの健康を守るために、微力ではございますがお役に立てればと考えております。

小児外科は、対象疾患も扱う臓器も様々で、小児科をはじめ多くの診療科の先生方との連携なくしては成り立ちません。今後も、診療科間、多職種間の良好なコミュニケーションがスムーズに行えるよう取り組んで参りたいと考えております。現在、４階西病棟カンファランスルームにて、毎週月曜17時からPediatric Tumor Board、毎週水曜16時30分から小児外科

第28号のなかみ

１ページ……○新任挨拶
２ページ……○入退院支援センターを開設しました
○栄養指導で褒める
３ページ……○リレー通信「『けやきの会』で、病院ボランティアを始めよう！」
○ふくしま国際医療科学センター整備について
４ページ……○病気のまめ知識
○癒やしのひととき
○クリスマスツリーを飾り付けました

病衣・付添寝具
清潔と快適をクリエイトする。
DOJINSHA
〔ご利用・お問合わせ先〕
株式会社 同仁社
医大リネン室
電話 024-547-1111
内線 3081

マチのほっとステーション
LAWSON
ローソン福島県立医科大学附属病院店（エレベーターホール隣）
ローソン福島県立医科大学店（7号館内）

オープンカンファランス、毎週金曜16時30分からNICUカンファランスの各多職種カンファランスを定期的に開催しております。毎回、多数の参加者を得て充実したディスカッションが行われ、多職種間の良好な情報交換の場となり、さらに治療方針の透明化の実践が図られています。

また、医療技術の進歩や医療機器の開発に伴い、治療成績の向上がみられる一方で、フォローアップの長期化や思春期以降の患者さんに対する診療体制が問題となっています。希少な疾患の場合や多診療科にまたがる場合等、患者さんの置かれた環境や患者さん自身の希望は様々で、これらについても、成人領域の診療科の先生方と共に、患者さんを中心とした診療を目指し、新たなフォローアップ体制の展開が期待されます。

少子高齢化、出生数の減少と厳しい状況下で、症例数も医師数も少ない一診療科ではありますが、今後福島県全体の需要を見据え、福島県の小児外科医療の中心としての責任を果たすべく、自己研鑽に努めて参ります。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

入退院支援センターを開設しました

地域連携部

入退院支援センターを、５月より附属病院１階の高度救命救急センター外来向かいに開設しました。

センターでは入院前から患者さんが安心して医療を受けられるよう患者さんの状態を身体的・社会的・精神的背景から把握し、入院前から退院後も見据えた支援を行っています。

現在は、整形外科への入院予定の患者さん及び消化管外科及び肝胆膵・移植外科の一部の入院予定の患者さんにお越しいただき、主にセンターの看護師が、入院前に患者さんに対し必要に応じて入院手続きの説明、入院生活の内容、入院当日の流れとおおよその入院期間、必要書類の説明と同意確認、手術に関わるスケジュール等を説明しています。また、薬剤師は持参薬の確認等を行っています。

入院前の説明時に、患者さんの基本情報や不安な事などを様々な職種で聞き取りすることにより、退院後の療養生活や介護に関する相談支援にもつなげています。

運用から７か月が過ぎ、センターを利用した患者さんからは好評を得ており、「安心して入院することができた」「予定を入れやすい」「不安が和らぐ」などの感想をいただいています。

今後は、平成28年度の「ふくしま国際医療科学センター」開設時に全科に導入する予定となっておりますので、これからも患者さんのサービス向上に努めてまいります。

栄養指導で褒める

栄養管理部　真田久美子

「まさか、指導を受けに来てこんなに褒められるとは思いませんでした。栄養指導とは注意されるところと思って覚悟してきたものですから…」

「１か月前に他の病院で栄養士さんから栄養指導を受けて、自分なりに４kg減量してきました」と言って目の前に現れた患者さんに対して、ごく素直に「すごいことです、よくがんばりましたね」と答えた一言に対しての言葉です。

病院で栄養指導室の敷居をまたぐことは、ある患者さんにとっては高い階段なのだと思います。それでも、良くなるために来てくれる患者さんに対して「あれも駄目、これも駄目、だから駄目」と駄目押しをしてしまったら、患者さんは閉口してしまうでしょう。

栄養指導は、対象者の目的を明確にし動機づけをして、実践できるように援助していくことが主な役割と思っています。だから、本人が自分なりに努力して頑張ったことに対して心から褒めて、認めてあげることは大切だと思っています。事実、１か月で４kgの減量をすることはよほどの意志の強さがなくては出来ないことなのですから。

もう一つ自分なりに心得なくてはと思っていることは、「その人の歩んできた人生（職業）、生きざまに対して、常に尊敬の念を持って接すること」です。相手は自分よりも長く生きてきた人たちであり、人生経験が豊富な人たちです。暗い表情で入って来たお歳を召したご婦人に、梅干しの漬け方を聞いただけで、生き生きと話をして教えてくれたりします。相手に対して尊敬の念を持って話をするといった心構えでいると、患者さんが先生となって症状などを自ら教えてくれるのでしめたものです。経験者の話ほど説得力のあるものはないのです。

栄養士から指導を受けると言うと、未だに「あ～だ、こ～だ言われる」のではないかと内心思っている人もいます。もちろん相手によりけりで厳しく接する時もあります。体を治すことより仕事（お金）の方が大事だという人に対しては、「どちらも大事です。両立させる方法を考えてみましょう」と優しく引導しながら（言外に）、さもないと大変なことになりますよ…と表情に現して、食事の重要性を再認識してもらえるよう説得します。わざわざお金を払って来てくれるのですから、こちらも真剣勝負なのです。一期一会で二度と会うことのない人もいらっしゃるはずですから、自分のできる精一杯のことはしてあげたいという理由からです。

だから、良くないことは悪いと言いますし、良いことや努力していることは出来る限り褒めます。どんな人でも褒められれば嬉しいし、やる気に繋がって、もう少しガンバッテみようと思っていただきたいからです。

栄養指導室の門は狭く敷居は高いと思っていられる方々、確かにそうかも知れません。しかし、「狭き門から入れ」というではありませんか。そこには、（昔も今も）美人で笑顔のステキな栄養士さんがいて、きっと優しくあなたの食事のアドバイスをしてくれるにちがいありません。健康志向の皆様はもちろんそうでない方々も、どうぞいつでもお越しください。お待ちしております。

病衣・タオル・紙おむつ・日用品
手ぶらで入院・手ぶらで退院
アイレンタル
お申込・お問合せ先：レンタル受付窓口
024-548-8777
＊院内1階、院外処方箋FAXコーナー横
月～土曜日　9:00～17:00　（日祝祭日休業）
株式会社アイシステムオフィス

リレー通信　「けやきの会」で病院ボランティアを始めよう！

病院経営課

当院で活動している病院ボランティア「けやきの会」は、来院された患者さんがより快適に診療を受けられるようサポートすることを目的に、病院OB並びに一般の方を含む有志により2001年に設立され、現在に至るまで元気に活動しております。

比較的高齢で車イス利用を希望する重症患者さんが多く来られる当院においては「けやきの会」の親身な対応と振る舞う笑顔は患者さんからも大変好評で、病院には欠かすことのできない存在となっております。

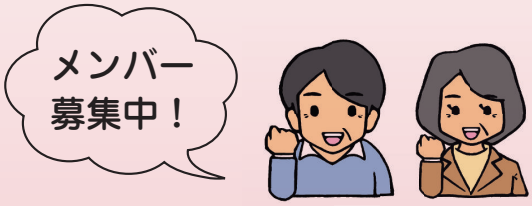
一方、メンバーの高齢化や各々の事情により発足当時60名近かったメンバーが現在半数以下に減少しております。

ボランティア活動をするにあたり、特別な資格は必要ありませんし、活動日は自分の都合の良い日だけでかまいません。活動内容も、「患者さんの受診受付のお手伝い」「車イスでの移動の介助」「院内の案内」など簡単なものです。

また、長年活動しているメンバーの皆さんから、丁寧に優しく教えていただけますので、初心者の方でもお気軽に参加できます。

もちろん年齢は問いませんが、現在は60代の男女を中心に定年後の生きがい、やりがい、仲間作りを目的に、そして患者さんとの関わりを楽しみながら元気に活動しております。

関心がある方は是非、病院経営課（TEL024-547-1021）までお気軽にお問い合わせください。ご連絡をお待ちしております。



ふくしま国際医療科学センター整備について

復興事業推進課

「こども医療センター」と「総合周産期母子医療センター」

平成28年度に最先端医療を提供することを目的として開設される「ふくしま国際医療科学センター」の中に「こども医療センター」と「総合周産期母子医療センター」があります。

福島県内における高度な小児専門医療は、これまでも福島県立医科大学附属病院が担って参りましたが、周産期・小児科学の分野においても医療の専門化・高度化が進む中、小児医療に特化した、より専門的な診断・検査・治療を実践する小児医療センターが求められていました。

「こども医療センター」と「総合周産期母子医療センター」の使命は、高度先端医療を提供して県内周産期・小児医療の拠り所となり、また充実した研修を提供することにより人材を確保・育成し、県内小児医療に貢献することです。新生児・未熟児医療、救急医療、がん診療、循環器診療、慢性疾患診療など、新生児～小児～思春期にかかわるすべての分野の先端診療に必要な環境の整備に向けた取り組みを進めて参ります。

整備工事の進捗状況

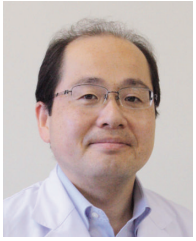
Ｄ棟の建設地では、「杭工事」という安定した固い地盤まで杭を構築し、建物を支える基礎工事を終えました。地面の上に大きな建物を建てると、その建物自身の重さで沈んだり、大きな地震で傾く可能性があるため、地面を約30ｍまで掘って、地面の中に柱を作り、建物を支える工事です。

現在は、建物の地下部分を掘るため、掘削した際にその周りの土が落ちてこないように、土を板で留める「山留工事」を行っています。

作業員一人ひとりが細心の注意を払って安全に工事を施工してまいりますので、何卒ご理解ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

病気のまめ知識

冬に流行するRSウイルス感染症



小児科学講座
准教授　橋本　浩一

冬を中心に流行する代表的な気道感染症としてインフルエンザとRSウイルス（RSV）感染症があります。小児の１歳迄に約70%、３歳迄にほぼ100%がRSVに感染し、感染児の２%が肺炎･気管支炎などで入院、その内20%がさらに重症化し人工呼吸管理など集中治療が必要になります。日本においては年間２～３万人の入院があると推測されています。通常、新生児・乳児は母親からの免疫（移行抗体）で多くの感染症から守られていますが、RSVは生後間もなくから感染し、新生児であるほど重症化しやすく、肺炎･気管支炎の他に、無呼吸のような症状が現れることがあります。したがって、特に３か月未満のRSV感染症の児は小児科医としても注意深く診療しています。

また、年長児や学童、成人にとってのRSV感染症は喘息の増悪因子として知られていますが、通常は鼻かぜ程度の“いわゆるカゼ”程度の症状であり、繰り返して何度も罹るのもRSV感染症の特徴です。さらに、乳幼児期の重症RSV感染症が将来の喘息発症に関係します。一方で、年配の方々にとっても大きな問題です。アメリカでは年間、約17,000人の大人がRSV感染症により死亡し、約80%が65歳以上の高齢者だそうです。RSVはヒトからヒトへは感染患者のクシャミや鼻汁による接触感染、飛沫感染によりうつります。家庭へは年長児や学童､成人により持ち込まれ、保育園・幼稚園などでは児の間で感染が拡大します。RSV感染症の診断は、インフルエンザ検査のような方法で、１歳未満の小児は病院で保険診療の中で検査ができます。全ての小児をRSV感染症から守るワクチンや、抗インフルエンザ薬のような薬剤はなく、現在、世界中で開発中です。大切な家族を守るのは、まずは家族がカゼを引かず、うつさないことです。

癒やしのひととき

11月17日に堀田理恵子さん（ヴァイオリン）と弓田菜々子さん（ヴィオラ）による「みんなの音楽会」が小児科病棟パントリーで開催されました。

和やかな雰囲気の中、ヴァイオリンとヴィオラの透明で繊細な音色が響きわたり、子ども達だけでなく、ご家族や病院スタッフにとっても心が癒される素敵なひとときでした。また子ども達の大好きな曲を演奏していただいた時には、鈴や手をたたいたり体を動かしたり、全身で喜びを表し楽しい時間を過ごすことができました。

このような機会を作っていただいた堀田さん、弓田さんのお心遣いは誠に有難く、厚く御礼申しあげます。本当にありがとうございました。

クリスマスツリーを飾り付けました

病院ボランティアの皆さんのご協力により今年も病院玄関ホールにクリスマスツリーを設置いたしました。

クリスマスツリーは、ボランティアで院内のフラワーアレンジメント教室「花＊花＊くらぶ」の講師をされている池田久美子さんに毎年設置いただき、今年で９年目となります。高さ1.8メートルのクリスマスツリーと飾りは、全て池田さんからご提供いただいたものです。

今年は、大ヒットした映画「アナと雪の女王」をイメージし、青いオーナメントと薄紫のリボンやポインセチア、布製の雪だるまが飾られ、とてもかわいらしい、優しい雰囲気のツリーとなっています。

こちらのクリスマスツリーは、12月25日の夕方まで設置されました。

すべてを地域のために
東邦銀行
ご利用･お問い合わせは 福島医大病院支店
窓口営業時間：平日午前9時から午後3時
電話　024−548−5331　（受付時間:平日午前9時から午後5時）

スターバックスコーヒー福島県立医科大学附属病院店
営業時間　平日　7時～20時
土日祝　9時～19時
アメリカ シアトル生まれのスペシャルティコーヒーストア。
高品質のアラビカ種コーヒー豆から抽出したエスプレッソがベースのバラエティ豊かなエスプレッソドリンクやペストリー、サンドイッチをお楽しみいただけます。

※次号は、３月下旬に発行を予定しています。